

## 6 小学部

### (1) 小学部の教育目標

- ① 健康で明るく元気な子  
(健康な体と豊かな心を育てる。)
- ② 自分のことは自分でできる子  
(身のまわりのことは自分でできる力を養う。)
- ③ 友達と仲良くできる子  
(情緒の安定を図り、集団生活に参加する態度を育てる。)
- ④ 規則正しい生活ができる子  
(基本的な生活習慣の形成を図る。)
- ⑤ 最後まで頑張る子  
(自分の役割を知り、最後まで頑張る態度を育てる。)

### (2) 教育課程の編成方針

- ① 本校教育課程編成方針に基づき、学校や小学部の教育目標を達成するために、個々の児童の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等について十分考慮し、適切な教育課程を編成する。
- ② 長期的な視野に立ち、本人、保護者の願いを反映させ、一人一人の教育的ニーズに応じた「個別の教育支援計画」を作成する。それに基づいて「個別の指導計画」を作成し、指導内容を精選して教科等横断的な視点で組織的に配列し、指導の重点を明確に定める。
- ③ 「個別の指導計画」を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立し、教育課程の改善につなげていくよう工夫する。
- ④ キャリア教育の視点を持ち、児童が将来の夢や希望をはぐくめるように、意識化を伴った基本的生活習慣の確立と人との豊かな関わりの基礎形成ができるような教育課程を編成する。
- ⑤ 豊かな人間性や社会性を育み、自立と社会参加に向けた教育の充実が図れるよう、交流及び共同学習や体験学習を計画的に教育課程に位置づけ、社会に開かれた教育課程実現に努める。
- ⑥ 育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいて指導内容を明確にし「生きる力」を育む教育課程を編成する。
- ⑦ 主体的・対話的で深い学びの実現へ向けて、学ぶことに興味や関心をもって取り組む「主体的な学び」、他者との対話を手がかりに自己の考えを広げ深める「対話的な学び」、各教科等の見方・考え方を働かせながら知識を相互に関連付けてより深く理解したり、考えを形成したり創造したりする「深い学び」の三つの視点に立った授業改善を行う。

### (3) 各教科等の指導の重点（基本方針等）

※育成すべき資質・能力の3つの柱に関連するものを以下のように表記する。

(知)・・・生きて働く「知識・技能」、

(思)・・・未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、

(学)・・・学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性の涵養」

教育課程Ⅰ【視覚障害教育，聴覚障害教育，肢体不自由教育，病弱教育】（準ずる教育・下学年）

① 各教科

ア 国語

- ・日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に触れ，親しむことができるようにする。（知）
- ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け，思考力や想像力を養う。（思）
- ・いろいろな本に親しみ，思いや考えを伝えたり受け止めようとしたりする能力や態度を養う。（学）

イ 社会（3～6年）

- ・我が国や地域の地理的環境，歴史や伝統文化，現代社会の仕組みや働きを通して，社会生活について理解し，様々な資料や調査活動を通して情報を調べたりまとめたりする技能を育てる。（知）
- ・社会的事象の意味を考えたり，社会に見られる課題を把握したりして，自ら社会への関わり方を選択・判断したりする力や適切に表現する態度を育てる。（思）
- ・よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに，我が国の国土と歴史，地域社会に対する愛情を育てる。（学）

ウ 算数

- ・数量や図形についての基礎的・基本的な概念や性質を理解し，日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。（知）
- ・日常の生活の中から，数量や図形を直感的に捉える力，基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし考察する力，数学的な表現で表したりする力を養う。（思）
- ・数学的活動の楽しさに気づき，学習したことを結びつけてよりよく問題を解決しようとする態度，算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら学習や生活に活用しようとする態度を養う。（学）

エ 理科（3～6年）

- ・自然の仕組みや働きなどについての基本的な事柄について理解し，観察や実験に関する初歩的な技能を身に付けるようにする。（知）
- ・観察や実験を行い，疑問を持ったり，問題の解決に向けて考える力を養う。（思）
- ・自然を大切にできる態度や学んだことを生活に生かそうとする態度を養う。（学）

オ 生活（1・2年）

- ・活動や体験を通して，自分自身，身近な人々，社会及び自然との関わりについて考えることができ，それらのよさや自分との関わりに気づき，生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。（知）
- ・身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，感じたことや考えたことを表現することができるようにする。（思）
- ・身近な人々，社会及び自然に自ら働きかけ，意欲や自信をもって，生活を豊かにしようとする態度を養う。（学）

カ 音楽

- ・曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに，表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。（知）

- ・音楽表現を工夫することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。(思)
- ・音楽活動の楽しさを体験することを通して、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。(学)

#### キ 図画工作

- ・形や色などの造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。(知)
- ・造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方について考え、身の回りの作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思)
- ・進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創り出そうとする態度を養う。(学)

#### ク 家庭 (5・6年)

- ・家族や衣食住などの家庭生活、日常生活に必要な基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。(知)
- ・日常生活の中から問題を見いだし、その解決方法を考え実践し、自分の考えたことを表現することができるようにする。(思)
- ・家庭生活を大切にすることを育み、生活をよりよくしようと工夫し考えようとする実践的な態度を養う。(学)

#### ケ 体育

- ・基本的な運動の楽しさやその行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようにする。(知)
- ・基本的な運動の楽しみ方や健康な生活の仕方について自らの課題を見つけ、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。(思)
- ・きまりを守り、自分から友だちと仲よく楽しく運動をしたり、場の安全に気を付けたりしようとするとともに、進んで健康に必要な事柄をしようとする態度を養う。(学)

#### コ 外国語 (5・6年)

- ・外国語の音声や文字、表現などについて、日本語と外国語の違いに気付き、聞く、読む、話す、書くことに関する知識について理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。(知)
- ・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う。(思)
- ・外国の文化に理解を深め、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学)

## ② 道徳科

- ・自己と向き合い、自律的に判断し、よく考えて節度のある生活をすることや努力して物事をやり抜く意欲や態度を育てる。(主として自分自身に関すること)
- ・他者に対して思いやりや感謝、信頼する気持ちを持ちながら、相互理解しようとする態度を育てる。(主として人との関わりに関すること)

- ・法やきまりの意義を理解して守り、働くことの意義を理解して進んで役に立つことを行い、集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努める態度を育てる。(主として集団や社会との関わりに関する事)
- ・生命や自然、崇高なものに関わり、生命の尊さを知り、自然愛護の精神を育て、よりよく生きようとする態度を育てる。(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事)

### ③ 特別活動

- ・集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。(知)
- ・集団や学校生活をよりよくするための課題を見いだし、解決するために話し合ったり、意志決定したりすることができるようにする。(思)
- ・集団活動を通して身に付けたことを自主的、実践的に取り組むことを通して、人間関係をよりよく形成するとともに自己実現を図ろうとする態度を養う。(学)

### ④ 自立活動

- ・個々の児童が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う。(健康の保持、身体の動き)
- ・健康の保持・増進に努め、心理的な安定を図り、対人関係の形成の基礎を培う。(心理的な安定、健康の保持、人間関係の形成)
- ・児童の感覚や認知の特性、身体の動き等を理解し、状況に応じて、適切な補助具や補助手段の活用を図る。(身体の動き、環境の把握)
- ・周りの状況を把握して、自らの意思や感情を伝え合う等、状況に応じた手段の選択、行動できる態度を培う。(環境の把握、コミュニケーション)

### ⑤ 総合的な学習の時間 (3~6年)

- ・探求的な学習を通して、課題の解決に必要な基礎的な知識及び技能を身に付けるようにする。(知)
- ・実際の生活や社会の中から、自ら課題を見付け、情報を集め、考えたことを表現することができるようにする。(思)
- ・探求的な学習に主体的・協働的に取り組み、互いのよさを生かしながら社会とかかわりをもとうとする態度を養う。(学)

### ⑥ 外国語活動 (3・4年)

- ・外国語を用いた体験的な活動を通して、言語や文化に対する理解を深め、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心を持ち、外国語の音声や簡単な表現に慣れ親しむようにする。(知)
- ・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。(思)

- ・外国語を通して言語や文化に対する理解を深め、外国語を用いて進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学)

## 教育課程Ⅱ【知的障害教育・知的代替】、Ⅲ【自立活動を主とした教育課程】

### ① 各教科

#### ア 生活

- ・具体的な活動や体験を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然との関わりについて気づき、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。(知)
- ・自分自身や身の回りの生活、身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、それらを楽しむことができ、感じたことを表現することができるようにする。(思)
- ・自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとする態度を養う。(学)

#### イ 国語

- ・身近で日常生活に必要な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉に触れ、親しむことができるようにする。(知)
- ・日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を養い、自分の思いをもつことができるようにする。(思)
- ・いろいろな本に親しみ、言葉でのやりとりを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。(学)

#### ウ 算数

- ・具体的な活動を通して、身の回りにある数や量、図形についての基礎的なことがわかり、それらを取り扱う技能を身に付けるようにする。(知)
- ・身の回りにある数や量、図形の性質などに気づき、操作したり比較したりして考えたり表現したりすることができるようにする。(思)
- ・数量や図形について学んだことよさや楽しさを感じながら、日常生活に活用しようとする態度を養う。(学)

#### エ 音楽

- ・曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。(知)
- ・音楽的な表現を楽しむことや感じたことを表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。(思)
- ・音や音楽に関わり友達や教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。(学)

#### オ 図画工作

- ・形や色などの違いに気づき、材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。(知)
- ・表したいことを思い付いたり、身の回りの作品などの面白さを感じ取ったりすることができるようにする。(思)
- ・進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだす喜びを感じるとともに、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創り出そうとする態度を養う。(学)

## カ 体育

- ・楽しく遊びや基本的な運動ができ、基本的な動きを身に付けるとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。(知)
- ・遊びや基本的な運動に慣れ、その楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活について考えたことや気付いたことを他者に伝え合う力を養う。(思)
- ・簡単なきまりを守り、教師や友達とともに安全に楽しく遊んだり、運動をしようとしたり、健康に必要な事柄をしようとする態度を養う。(学)

## ② 道徳科

- ・良いことと悪いことの区別がわかり良いと思うことを行い、規則正しい生活をする中で自分でできることは自分でやり、やるべきことを最後までやり抜こうとする態度を養う。  
(主として自分自身に関すること)
- ・気持ちの良い挨拶や言葉遣いなどを心掛け、自分の気持ちを相手に伝え、身近にいる人と仲良く助け合う心を育てる。(主として人との関わりに関すること)
- ・約束やきまりを守り、家庭や学校・地域での生活を楽しみ、与えられた仕事をみんなのためにがんばる態度を養う。(主として集団や社会との関わりに関すること)
- ・身近な自然に親しみ、動植物に優しく接して、生命を大切にする心を育てる。(主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること)

## ③ 特別活動

- ・体験的な活動を通して、集団活動を行う上で必要となることについて気付き、行動の仕方を身に付けるようにする。(知)
- ・集団や学校生活をよりよくするために役割を分担して協力して実践したり、話し合ったり、意志決定したりすることができるようにする。(思)
- ・集団活動を通して身に付けたことを生かして、人間関係をよりよく形成するとともに自己実現を図ろうとする態度を養う。(学)

## ④ 自立活動

- ・個々の児童が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養う。(健康の保持、身体の動き)
- ・身近な人との信頼関係を築き、遊びや集団活動などに積極的に参加できるようにする。(心理的な安定、コミュニケーション、身体の動き)
- ・健康の保持・増進に努め、情緒の安定を図り、コミュニケーションや対人関係の形成の基礎を培う。(心理的な安定、健康の保持、人間関係の形成)
- ・保有する感覚を活用して周りの環境を把握し、身体の動きを高めるとともに、作業に必要な動作を獲得する。(環境の把握、身体の動き)
- ・保有する感覚を活用して周りの環境を把握し、コミュニケーションの基礎的能力を培う。(環境の把握、コミュニケーション)

#### ⑤ 外国語活動

- ・外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気づき、外国語の音声に慣れ親しむようにする。(知)
- ・身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。(思)
- ・外国語を通して、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学)

#### ⑥ 各教科等を合わせた指導

##### ア 日常生活の指導

- ・日常生活や学習の自然な流れに沿い、繰り返しながら取り組むことにより、望ましい基本的生活習慣の形成を図る。
- ・日常生活や社会生活において、挨拶をする、きまりを守るなどの意欲や態度を育てる。

##### イ 遊びの指導

- ・いろいろな遊びを通して、遊ぶ楽しさを味わうことにより、情緒の安定を図り、豊かな情操を養う。
- ・いろいろな遊びを通して、経験を広げ、さまざまな事象に興味・関心を持ち、望ましい対人関係についての力を養う。

##### ウ 生活単元学習

- ・個に応じた具体的・実践的活動を通して、生活経験を広げるとともに積極性や主体性を育て、社会生活に必要な力をはぐくむ。
- ・生活に即した学習活動を組織的・体系的に経験し、集団で協働して取り組む楽しさを味わう。

### 教育課程Ⅳ【訪問教育】

#### ① 教育方針

- ア 児童の障害の状態や特性、発達段階及び興味関心を考慮し、家庭との連携を密にしながら児童の教育的ニーズに応じた教育課程を編成する。
- イ 主に日常生活の指導と自立活動、生活単元学習を週3回(1日45分×2コマ)行うことを原則とする。
- ウ 児童の体調を考慮しながら情報通信ネットワークを活用したり、スクーリングを行ったりして、当該学年の授業や学校行事等へ参加する。

#### (4) 交流及び共同学習の重点

近隣の学校との交流及び共同学習や個別の居住地校交流、異年齢の学習形態による活動や、高齢者を含む地域社会との交流活動を通して、豊かな人間性や社会性を育み、好ましい人間関係形成のための素地を養う。

#### (5) 生徒指導の重点

- ① 日常生活に必要な身近処理能力や基本的生活習慣の形成を図る。
- ② 組織的な児童理解を図り、障害の状態や特性及び心身の発達の段階に応じた指導を行い、充実

感・達成感を味わえるよう指導することで、教師と児童の信頼関係を深める。

- ③ 家庭や地域社会及び関係機関等との連携・協力を密にし、児童一人一人が集団の中で、互いに協力し合う活動を通して共感的な人間関係を育む。

### (6) キャリア教育の重点

- ① 将来の日常生活及び社会的・職業的自立に向けて、個々の発達段階に応じた基本的生活習慣の形成を図る。
- ② 家庭や地域社会と連携し、生活経験の拡充を図り、豊かな人間関係の基礎を育てる。
- ③ 自分の役割がわかり、進んで物事に取り組もうとする意欲や態度及び日常生活に必要な力を身につけるようにする。
- ④ 自己の将来に対する夢や希望を育む。

### (7) 生涯学習への意欲を高める指導の重点

地域社会にある施設の見学や体験，日常生活に根ざした課題解決学習等を通して，身の回りの物事に対する興味関心，身近な人との関わりを楽しむ態度，主体性を育む。

### (8) 安全教育の重点

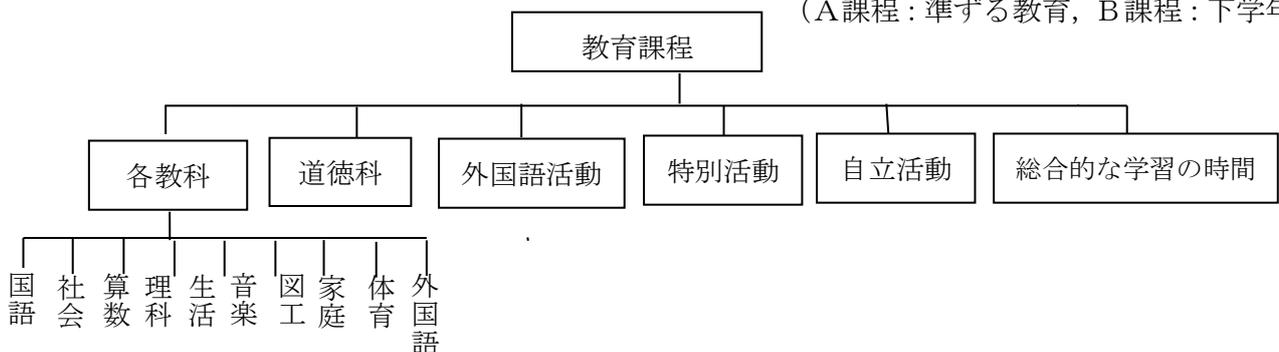
- ① 日常生活の様々な場面で発生する危険を知り，安全に行動できる態度や技能を育てる。
- ② 災害や事故などの危険を知り，防災や交通安全を意識して自らの安全を確保するための行動ができるようにする。
- ③ 様々な感染症を知り，感染予防のための行動ができるようにする。
- ③ 情緒の安定を図るとともに自己統制力を育てる。
- ④ 自分の発育・発達に関心を持ち，身体の清潔や望ましい食習慣について理解し，健康の保持増進に努める態度を育てる。
- ⑤ 性に関する指導は，身体的成熟や心理的な発達を踏まえ，家庭等との密接な連携・協力の下，学校の教育活動全体を通して適切な指導を行う。

### (9) 指導形態

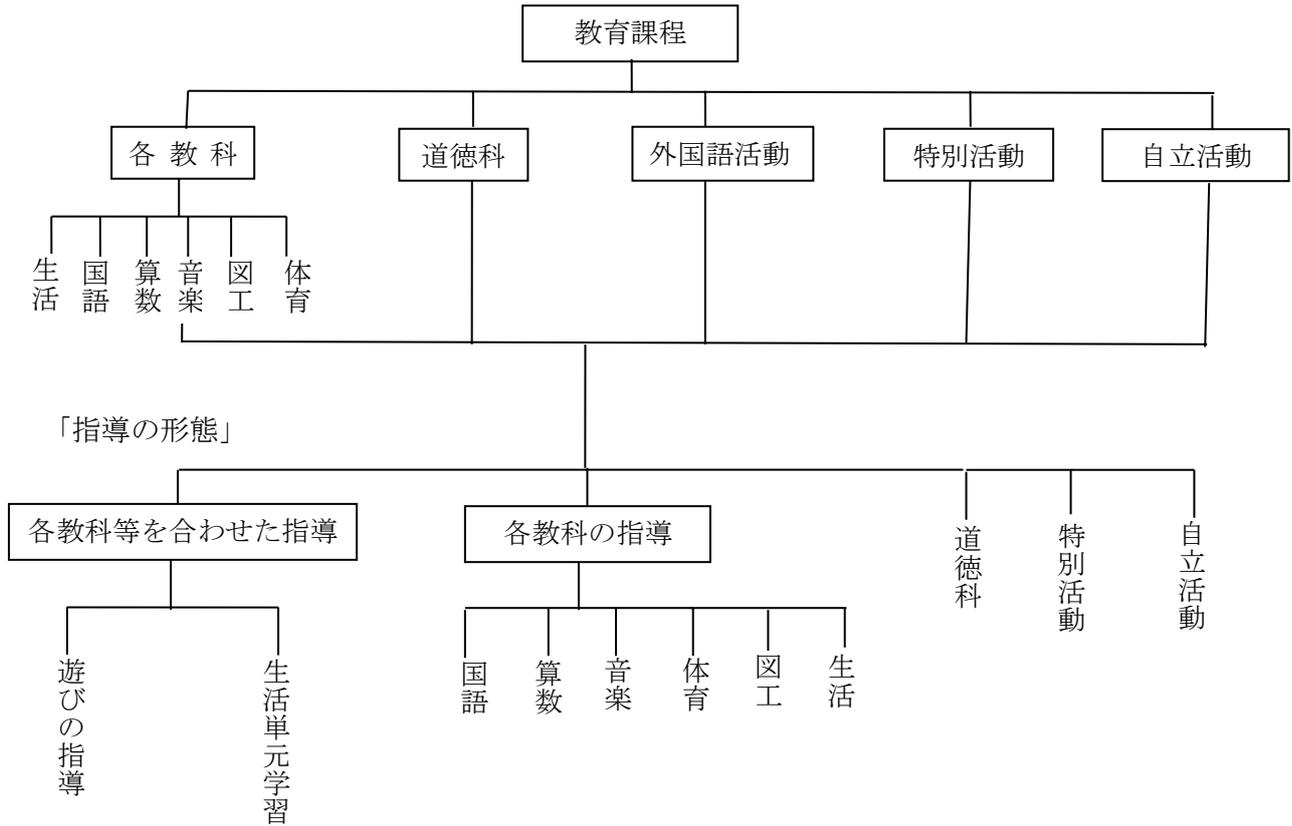
- ① 教育課程の構造図

ア 教育課程 I 【視覚障害教育，聴覚障害教育，肢体不自由教育，病弱教育】

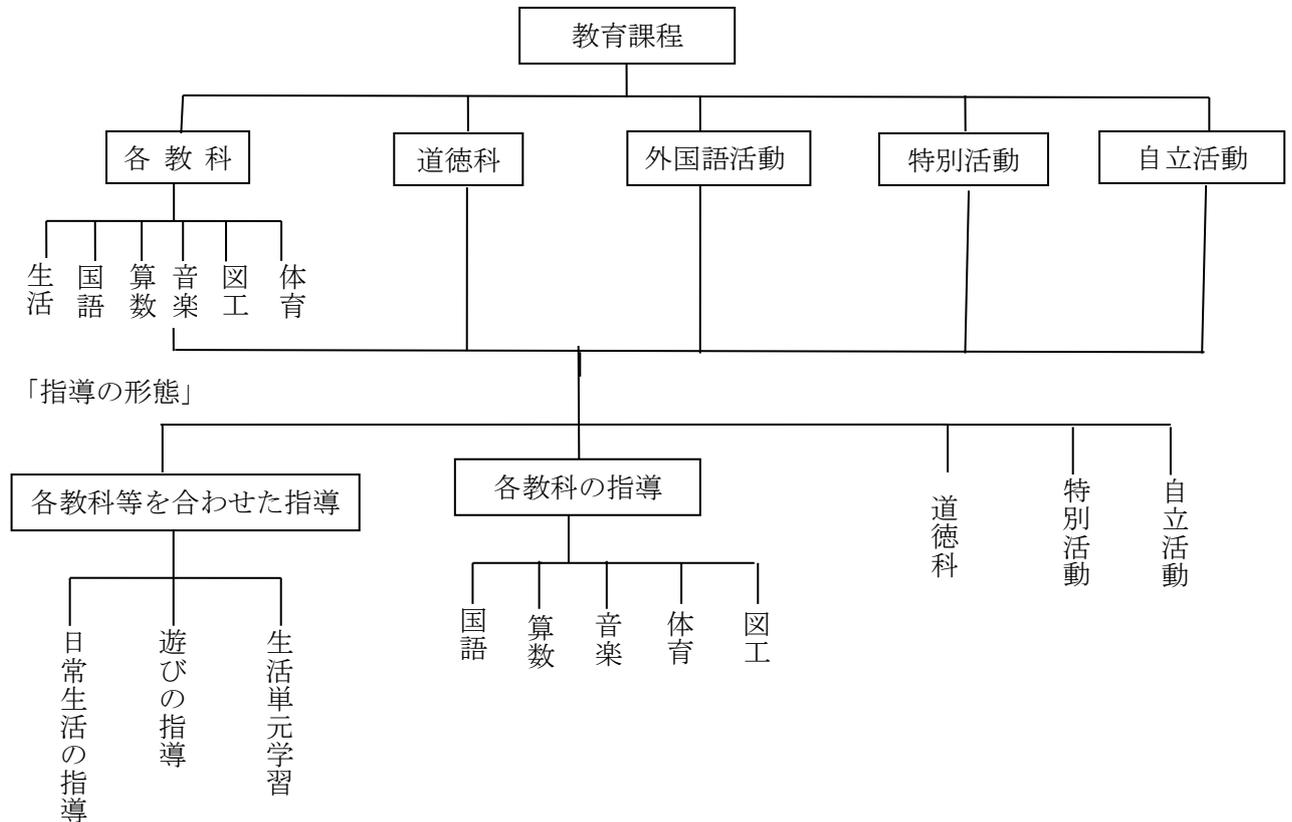
(A課程：準ずる教育，B課程：下学年)



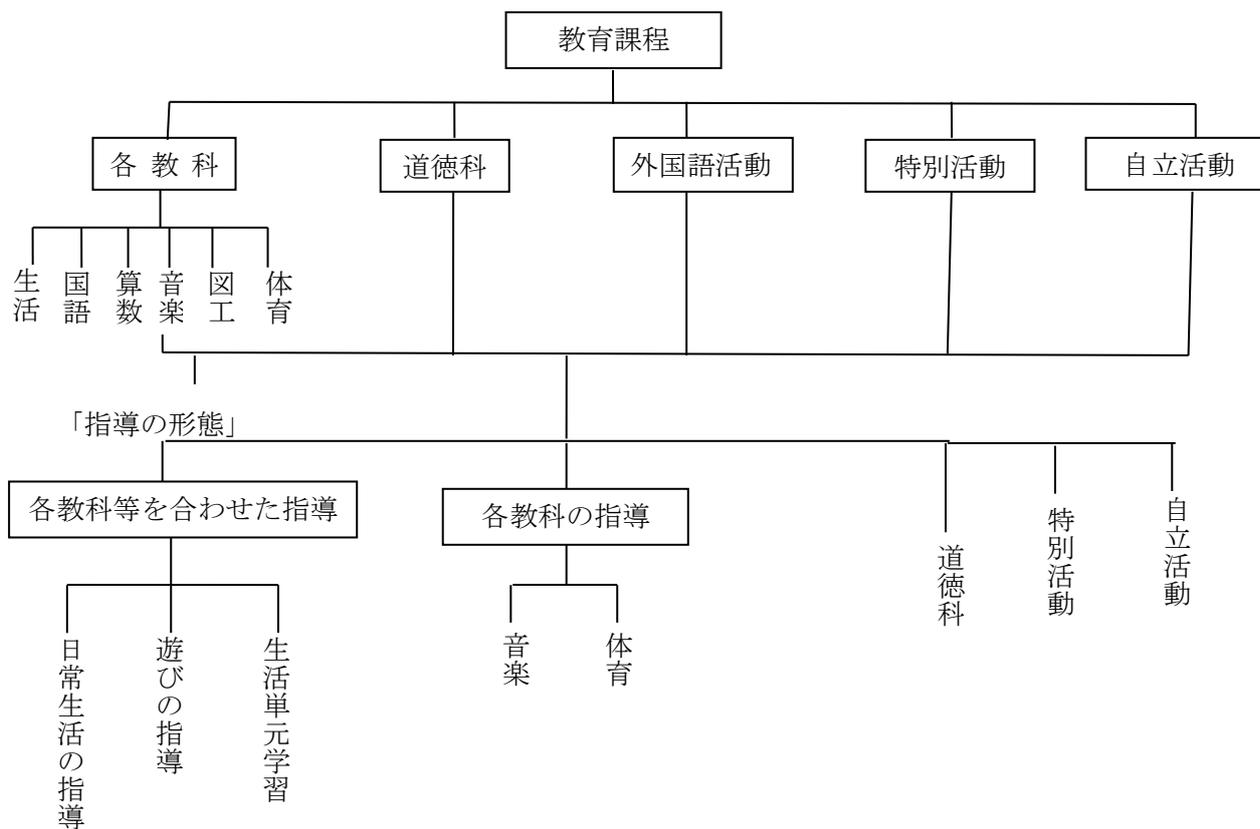
イ 教育課程Ⅱ-A【知的障害教育・知的代替】



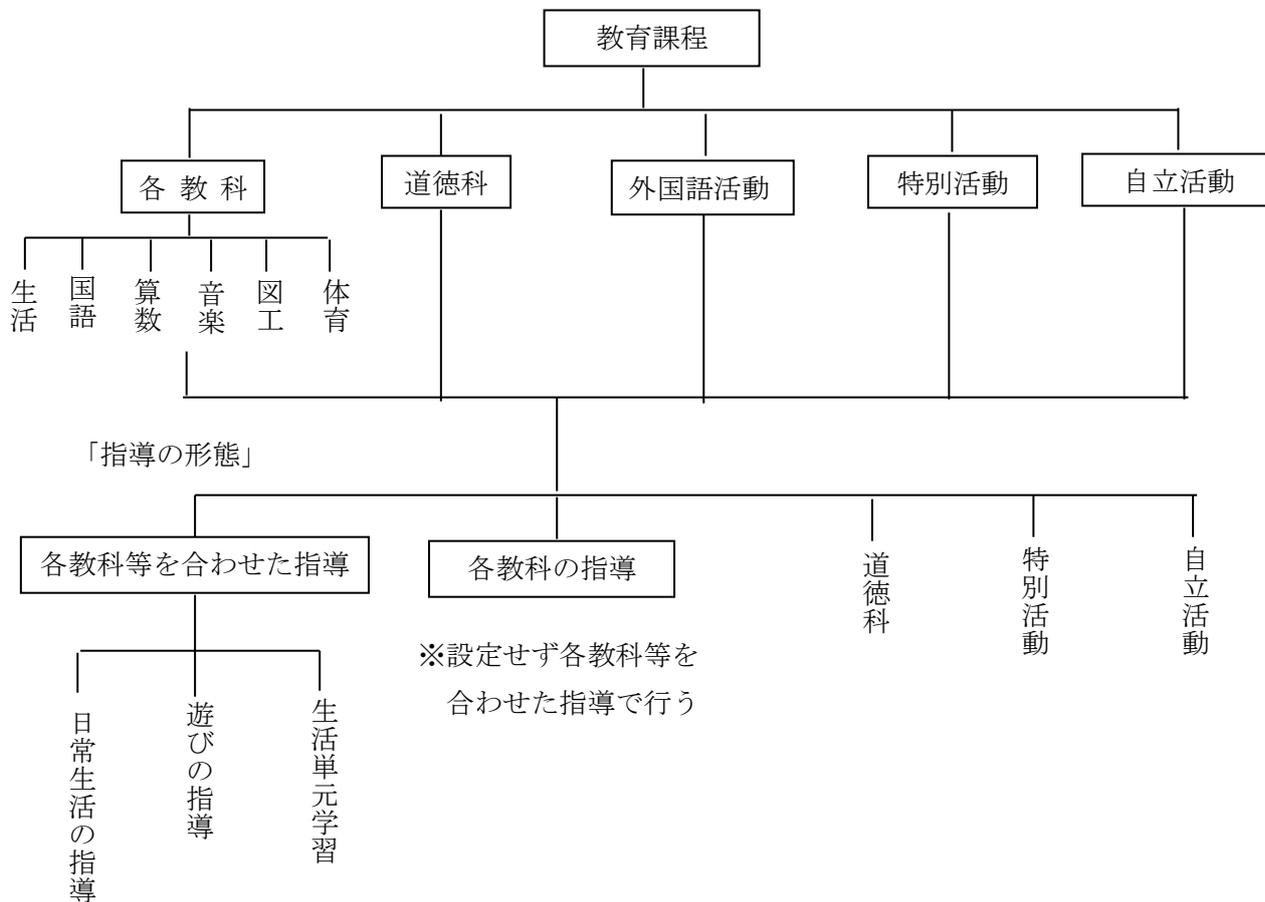
ウ 教育課程Ⅱ-B【知的障害教育・知的代替】



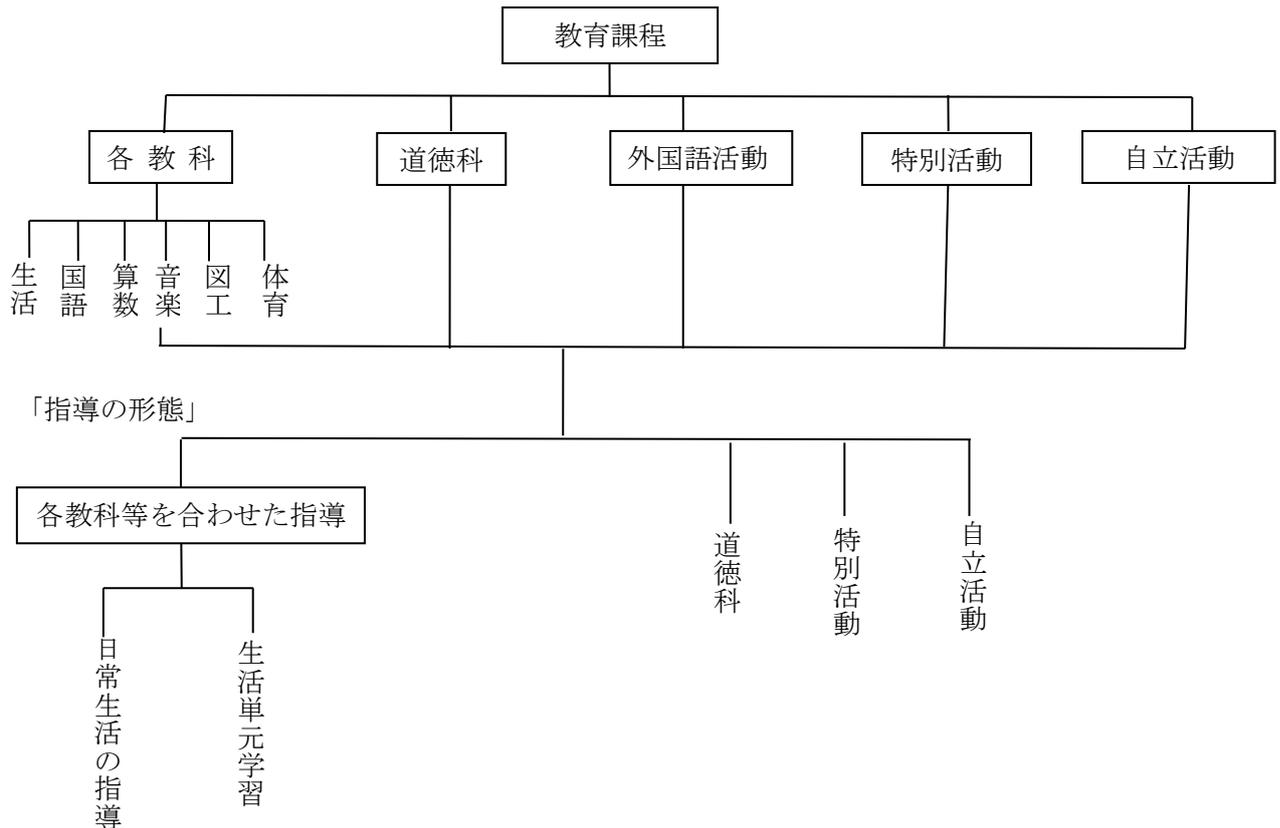
エ 教育課程Ⅱ－C【知的障害教育・知的代替】



オ 教育課程Ⅱ－D【知的障害教育・知的代替】，Ⅲ【自立活動を主とした教育課程】



カ 教育課程Ⅳ【訪問教育】



②指導形態及び指導体制

- ・ 知的障害教育では教科別の指導と指導の形態としての各教科等を合わせた指導を行う。各教科等を合わせた指導を行う際には各教科の目標、内容をおさえて指導を行う。
- ・ 視覚障害教育，聴覚障害教育，肢体不自由教育，病弱教育では教科別の指導を主としながら，実態に応じて教科等横断的な指導を取り入れる。
- ・ 指導内容によっては，隣学年合同や学部合同指導も行う。
- ・ 自立活動は，児童の実態に応じて，指導内容の充実や定着を図るため，個別指導や学習グループ別の指導も行う。
- ・ 児童の実態を的確にとらえた指導を行うために，家庭や福祉機関（施設を含む）及び保健・医療機関との連携を密にする。

③各類型の説明

- I 課程A類型・・・小学校に準ずる教育の学習内容を取り扱う。
- I 課程B類型・・・小学校の下年代替の学習内容を取り扱う。
- II A 課程・・・知的障害教育小学部3段階程度、もしくはそれ以上の学習内容を取り扱う。
- II B 課程・・・知的障害教育小学部2～3段階程度の学習内容を取り扱う。
- II C 課程・・・知的障害教育小学部1～2段階程度の学習内容を取り扱う。
- II D 課程・・・知的障害教育小学部1段階程度の学習内容を取り扱う。
- III 課程・・・自立活動を主とした学習内容を取り扱う。
- IV 課程・・・自立活動の内容と知的障害教育の教科等に代替の学習内容を取り扱う。